



浜松科学館
Hamamatsu Science Museum

みらい
M I R A I ~ R A

基本計画

2019年3月31日

乃村工藝社・SBSプロモーション共同事業体

目次

1. 事業の基本方針	
(1)施設のコンセプトと管理運営目標	1
(2)管理運営の方針と重点施策	2
2. 事業計画	
(1)展示運営	3
(2)科学学習情報システム	4
(3)特別展・企画展	5
(4)参加型学習	5
(5)プラネタリウム	7
(6)学校等との連携	9
(7)関係機関等との連携	11
(8)ボランティア活動支援	12
(9)調査・研究及び収集・保存	13
(10)マーケティング	13
3. 経営管理	
(1)開業日及び開館時間	15
(2)利用料金	15
(3)管理運営体制	16
(4)受付案内	19
(5)貸室	19
(6)施設維持管理	20
(7)安全管理	21
(8)モニタリング及び事業改善	22
4 自主事業	
(1)ミュージアムショップ	25
(2)カフェ	25
(3)任意の自主事業	26

1 事業の基本方針

(1) 施設のコンセプトと管理運営目標

浜松科学館の基本理念を実現するためのリニューアル及び管理運営のコンセプトを「浜松・サイエンスベースキャンプ(自ら考え、対話し、行動する【科学×挑戦】の活動基地)」とし、10年後を見据えた目標を立てて管理運営を行います。

【基本理念】

誰もが科学を楽しみながら『科学する心』を育むことができる科学館 ～世界に羽ばたく未来の人財のための“科学教育の拠点”

●科学の進歩とともに歩む博物館

子供から大人まで、いつでも気軽に最新の科学の知見や成果に触れる中で、科学の進歩と素晴らしさを、より身近に感じることができる科学館

●人を通じて科学と繋がり、誰でも、また来たくなる楽しい科学館

最先端の科学展示を軸に、来館者同士、あるいは来館者と科学館スタッフ・研究者、親と子供、教師と生徒等、様々な立場の人が双方向のコミュニケーションにより交流と創造を促されることで、誰でもまた来たくなる楽しい科学館

●ノーベル賞への入口となる、自らの夢を実現できる科学館

子供たちが、単に科学に関する知識を獲得するだけにとどまらず、「科学する心」を育み、ノーベル賞への入口となる、自らの夢を実現できる科学館

【施設のコンセプト】

浜松 サイエンス ベースキャンプ

—自ら考え、対話し、行動する、【科学×挑戦】の活動基地—

“科学する心”を持って夢に挑戦する人々を応援する「サイエンス・ベースキャンプ～未来創造の拠点基地～」として、地域の人々とともに活動し、成長していくことをめざします。

- 知的好奇心を触発し、子供も大人もともに科学を楽しむ場をつくれます。
- 一人ひとりが主体的に学び、さまざまな方法で考え、チャレンジすることを大切にします。
- 浜松の先人の姿と現在の技術のつながりを実感し、社会に貢献する大きな夢を育みます。
- 科学館が、浜松の多様な人々の連携・協働を進めていくための“ハブ”となります。
- 科学技術の最先端を体感し、次代を担う子供たちの創造力や挑戦する心を育みます。

(2) 管理運営の方針と重点施策

科学館の中核的な事業として、多様な学びの場を創出し、「人財創造」に取り組むとともに、地域・市民と連携して「都市文化」「産業」「観光」の振興を通じた地域づくりに貢献することを目指します。また、持続可能な経営基盤を築くことで「施設価値」を高めます。

管理運営目標を達成し、基本理念を実現するために、各事業について、リニューアルオープン(運営開始)後10年の方針と、根幹となる施策(重点施策)を定めて取り組みます。方針は、事業の進捗状況や外部環境、内部環境の変化によって、設置者と指定管理者間で協議の上、見直しを図っていきます。

	[目標]	[方針]	[重点施策]
中核事業 地域づくり事業 体制整備	目標1 人財創造	多様な学びの場の創出 次世代人財が家族や仲間、地域内外の人々と学び合う科学館を目指し、幼児から高齢者までが科学の楽しさを体験できる多様な事業を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 幅広い年代が活動する多様な学びの場づくり ■ 能動的、双方向のアクティブ・ラーニングの場づくり ■ 多様な科学技術を体験できる学びの場づくり ■ 先端技術や研究の最前線に触れて学べる場づくり ■ 人と人との対話・交流を促進するファシリテーション
	目標2 都市文化創造	科学する心と挑戦心の継承 先人から受け継がれてきた「科学する心」と「挑戦心」を育む活動を大学や企業、市民とともに実践し、地域文化として発信していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 科学館活動や科学・技術に関わる情報の発信 ■ 市民と科学・技術関係者との対話・交流の場づくり ■ 市民の参加・協働による科学館活動の推進 ■ 科学と音楽等を融合させたコンテンツやプログラムの開発 ■ 子どもたちと市民のチャレンジを支援する事業の実施
	目標3 産業創造	起業家精神の育成 科学館の機能を活かし、地域の産官学金と連携して、先端的な技術を紹介するとともに、次世代の人々の起業家精神を育みます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「新技術紹介コーナー」の運営を通じた企業や大学の先端的な技術の紹介 ■ 科学技術や産業発展に貢献する次世代人材の育成 ■ 展示や教室、ミュージアムショップ等の運営における企業との連携による次世代の起業家精神の触発
	目標4 観光創造	浜松の魅力発信 浜松の観光交流拠点として、ものづくりや科学技術、自然の魅力を発信し、ビジネスや観光目的で訪れる人々と市民の交流による賑わいを生み出します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 浜松の産業、自然、まつりなどの魅力の発信 ■ 地域の観光、産業等関係者との連携による観光誘客 ■ エリアに賑わいと交流を生み出す場づくり、イベントづくり ■ 浜松の魅力を発信するコンテンツやグッズの開発 ■ 観光客のニーズを把握し認知度、満足度を高める取組み
	目標5 施設価値創造	持続可能な仕組みづくり 自主財源確保への取組みと質の高い人財の育成により、ハード、ソフト両面の改善を推進し、地域に貢献できる施設として持続可能な発展を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 財源確保への積極的な取組み(利用料金、自主事業、外部資金導入) ■ 学びの場づくりと地域づくりを担う質の高い人財の育成 ■ 計画的、効果的な展示更新と継続的なコンテンツ開発 ■ 災害や事故のリスクに備えた常に安全・安心な体制づくり

2 事業計画

(1) 展示運営

一回限りの展示体験で終わらせるのではなく、来館者が展示で楽しく遊ぶことをきっかけとして、自ら試し、考え、周りの人との対話を通じて疑問や発見を言語化することを繰り返しながら学びを深めるアクティブ・ラーニング型の学びの場として展示室を運営し、学びや経験を社会の中で活かせる力＝生きる力を育みます。

- 「主体的な学び」の支援・・・自ら進んではたらきかけ、試行錯誤を繰り返しながら学べる場をつくります。
- 「対話的な学び」の支援・・・展示を介して、人と人が対話しながら学び合える場をつくります。
- 「深い学び」の支援・・・展示体験から得られた気づきや考えを、表現や創造を通じて深められるよう導きます。

① 「展示ストーリーブック」をバイブルとした、多様な来館者の学びの支援

展示のねらいや期待される効果等についてまとめた「展示ストーリーブック」を整備し、来館者へ充実した展示解説を行います。また、多様な来館者の主体的な学習を支援するツールを制作します。

「展示ストーリーブック」は、「展示体験支援マニュアル」をベースとして作成し、来館者の体験や声を反映させて更新していきます。来館者の質問やアンケートの回答、来館者とAIの対話ログなどに基づいて、関心のあることや知りたいことを把握し、反映させていきます。またそれらをもとに、来館者に必要な学習支援を行っていきます。

② スタッフによる主体的・対話的で深い学びのアクティブ展示解説

展示室に展示交流スタッフを配置し、来館者の展示体験を支援することで、学習性や創造性を高めます。

③ 多様な利用者のための学習支援ツールの用意

利用者の展示を活用した主体的な学びや、発見や疑問の言語化、利用者同士の対話を促進するための学習支援ツールとして、利用者の属性や目的等に応じたガイドブックやワークシート等を整備します。

<学習支援ツール例>

種類	目的・対象・内容等
展示ワークシート (児童生徒向け)	児童生徒を対象とした展示ワークシートを作成し、子供たちの展示アイテムを利用した主体的な学び、深い学びを促進します。
親子学習支援ツール 「おやこでまなぶブック& ワークシート」	子どもと一緒に展示を体験する保護者のためのツールを提供します。 展示で楽しく遊びながら、子どもの気づきを促したり、疑問を引き出したりするための質問やヒントなどを展示コーナーごとに用意します。気づいたことや疑問に思ったことを言語化して持ち帰ることのできるワークシートも用意します。
学習の手引き	学校教員を対象として、学校団体向けの利用案内や、展示やプラネタリウムを利用した学年別、単元別の授業の実施方法等を紹介する冊子を、浜松市教育研究会理科研究部の先生方の協力を得て作成し、配布します。
その他	来館者のニーズに応じて、下記のような支援ツールを検討します。 ・ 幼児向けの浜松科学館スタートブック (保護者のための展示室での遊び、学びのヒント集) ・ 外国語版展示ガイド (英語、ポルトガル語等) ・ 産業観光向け展示ガイド 等

④ 展示の更新

◆ 常設展示の展示更新

- ・ 展示更新を、2024 年度、2026 年度に実施します。
- ・ 展示更新にあたっては、リニューアルオープン後に実施するモニタリングの結果を踏まえるとともに、来館者アンケートの結果や来館者とAIの対話履歴等のデータの分析結果に基づいて計画します。また、科学技術の動向を分析してテーマを検討します。
- ・ 展示計画は、2024 年度と 2026 年度を一体的にとらえた全体計画に基づいて実施します。
- ・ 展示更新の工事期間は、利用者に対するサービス低下を最小化するため、一般、団体ともに利用者の少ない冬期の閑散期に行い、春休みにオープンさせることを想定して、2024 年度末(2025 年 2 月中旬から3月中旬頃)及び、2026 年度末(2027 年 2 月中旬から3月中旬頃)を想定します。

◆ 新技術紹介コーナーの展示更新

- ・ 最先端の科学技術を保持する企業等が、その技術を製品等に活かしていることを紹介し、科学的知見が現在の技術に繋がり、未来の技術革新に繋がっていくことが理解できる展示を行います。
- ・ 出展企業等を全国から公募し、3～5件の展示を行います。
- ・ 企業等には、展示に関連する子どもたちの体験学習やセミナー等の開催をはたらきかけ、研究者や開発者と来館者の対話や交流を促進します。
- ・ 展示の手法や期間については、出展時に企業等と協議するものとします。展示期間は、利用動向等に応じ、企業等及び市と協議の上で、延長等の措置も講じることとします。

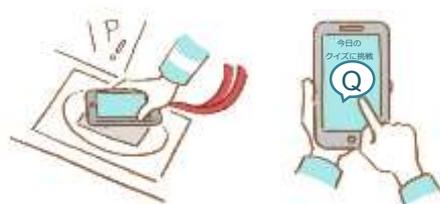
(2) 科学学習情報システムの運用

科学学習情報システムは、来館者の主体的な学びを支援するツールです。科学館内での体験の質を高めるとともに、各個人の体験の記録を残すことで発展的な学びにつなげます。端末を所有していない来館者や、学校団体には、タブレット端末を貸し出します。

◆ デジタルデバイスの活用による展示空間での学びの拡張

スマートフォンアプリを使って、展示を活用した主体的な学びを引き出します。アプリを使用することで、展示に関連した科学的な事象についてのより発展的な情報を得ることができます。

また、展示アイテムで作成した写真や音声データを持ち帰る機能を持たせることで、振り返り学習を促します。科学に関連したクイズにチャレンジできる情報端末を展示室の 5 か所に設置します。



◆ 「IBM Watson Assistant」を用いた AI 対話システム

「IBM Watson Assistant」を用いた AI 対話システム「コンパス君」を運用します。「コンパス君」は来館者の質問に対し、答えを与えるのではなく、疑問を引き出したり、次の学習行動(別の展示を見る、調べる等)を促したりする役割を担います。

日本 IBM 社による研修を受けたスタッフが、来館者の実際の発問に応じた返答を適宜組み込みます。

◆ 体験履歴の蓄積と、体験ポイントの付与

来館者の自発的な学びの意欲を高め、再来館を促進することを目的とし、体験ポイントを貯めることのできる

仕組みを運用します。アプリあるいは IC カード(みらいーらカード)を使うことで、来館や教室参加等のタイミングで体験ポイントが付与されます。獲得したポイント数に応じて、オリジナルグッズや特別体験の機会を提供する特典を設けます。

アプリや館内の情報端末からだけでなく、浜松科学館のウェブサイト上からログインできる会員ページを設けます。館内または帰宅後に、貯めたポイントの照会や、体験履歴の確認などができるようにします。

(3) 特別展・企画展

特別展と企画展の開催により、科学館と地域の集客力を高め、賑わいを生み出します。市民が科学に親しむきっかけをつくるとともに、浜松の魅力を広く発信します。

① 特別展、企画展開催の基本的な考え方

学校の長期休暇期間に特別展、企画展を開催し、来館を促進します。開催にあたっては、新聞社や放送局と連携し、広報によって集客を高めます。また、周辺及び市内のイベントとの集客の相乗効果を考慮し、事業や広報において連携します。それ以外の時期における外部機関等からの持ち込み企画に対しても、費用対効果を考慮して柔軟に対応します。

< 特別展、企画展の開催時期と開催方針 >

種類	開催時期	開催の基本方針
夏休み特別展	夏季休暇期間	最大の集客期として、話題性のある特別展を開催。周辺市街地の夏休みイベント等とも連携し、相互の集客を高める。
春の企画展	春季休暇期間 ～ゴールデンウィーク	市民に科学の楽しさや地域の魅力を発信。ゴールデンウィーク期間中は浜松まつりと連動して浜松の魅力を発信し、観光集客にも貢献することを目指す。
その他 (上記期間以外)	随時	集客力を高めるため、来場動向を鑑み、秋期や冬期休暇期間の企画展開催を検討する。また、外部機関(JAXA等)の巡回展の開催館募集や、外部団体、企業等の持ち込み企画に対し、費用対効果を考慮して柔軟に誘致や受入を行う。

(4) 講座、イベント等

幼児からシニアまでが教室や講座に参加して科学を楽しむ文化を浜松に根づかせ、市民が生涯にわたって科学館で学び、成長できるような場をつくっていきます。科学に対する市民の学習ニーズを掘り起こし、学習深度や関心に応じた教室や講座を、下記の方針のもとで実施します。

- ・次世代人材を育成するプログラムを中心とし、中高生の参加も促進
 - ・大人が楽しめるプログラムを拡充し、市民の生涯にわたる継続的な学習参加を促進
 - ・企業や他機関の協力を得て、科学館だけでなく人・地域・社会とのつながりを実感できる学びの場づくりを推進
- イベント内容の難易度や作業時間に合わせて入門、初級、中級、上級の4部門を設定し、幼児からシニアまで幅広い世代が満足できる学習環境を設定します。

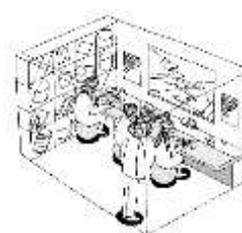
① 入門編

来館者が科学館に親しみ、足を運ぶ動機づけとなるよう、「いつ訪れても」「予約なしで」「館内のいろいろな場所

で」という方針で、実施する参加型学習の入門編です。プログラムは 30 分以内を想定し、来館者が気軽に参加できるようにします。

➤ **アクティブ展示解説**

「自然」「音」「光」「力」「宇宙」の各ゾーンの展示アイテムを活用した来館者とスタッフの対話的な展示解説を行います。平日に 2 種 1 回ずつ、休日には 4 種 1 回ずつを目安に実施します。



➤ **サイエンスショー**

みらいーらステージでサイエンスショーを実施します。双方向のコミュニケーションや、予測したり考えたりするプロセスを重視したプログラムとします。1 日に 3 種のプログラム 1 回ずつを目安に実施します。



➤ **ミニワークショップ**

みらいーらテーブルにおいて、観察、実験、工作等のプログラムを実施。体験時間 30 分未満で来館者が順次参加できるようにします。毎日 1 種 1 回ずつを目安に実施します。

② 初級編

子どもたちの主体性や対話を大切に「アクティブ・ラーニング」を基本的な考え方として、新たなプログラムを開発します。同時に、これまで親しまれてきたプログラムを部分的に継続し、発展させます。時間は 1～2 時間程度を想定し、基本的に学校の休日に実施します。

➤ **サイエンスラボ、ものづくりラボでのプログラム(初級編)**

手を動かして考えることを重視し、観察や実験、工作などのプログラムを展開します。自ら工夫する要素を入れ込んだり、作ったものを持ち帰ることができたりと、サイエンスショーや展示学習とは異なる学びの機会を提供します。

また、低学年の児童や幼児と保護者が一緒に学べるプログラムを実施します。子どもと一緒に参加することで親の満足度を高め、リピート利用を促進します。家でできる実験などを紹介し、家族で科学を話題にするきっかけをつくります。

➤ **プログラミングに関しての催し**

ITキッズプロジェクトなどとも連携し、プログラミングを学ぶ機会を利用者に提供します。

③ 中級編

小学校高学年から大人を対象とした発展的な内容のプログラムを実施します。プログラムは半日～全日程度を想定し、参加者の学びの充実度合いを高めます。

➤ **サイエンスラボ、ものづくりラボでのプログラム(中級編)**

継続的に参加できる教室などを実施し、科学を学ぶ楽しさ、仲間と活動する楽しさの実感を大切にしたり場づくりを行います。

➤ **大人向けプログラム**

大人をターゲットとして、科学やものづくりに親しむことのできるプログラムを開催します。成熟した生活者としての科学に対する興味関心や問題意識に応える講座等も展開します。

④ 上級編

第一線で活躍される研究者、技術者を招き、「講演会」や「サイエンスカフェ」という形で科学の最前線を実感する場を提供します。

* グリーンサイエンスカフェ in 浜松については、2-(7)-①に記載します。

* 学校、地域内外の関係者との連携事業は、2-(6)-③、④に記載します。

* 地域内外の関係者との連携事業は、2-(7)-①、②に記載します。

(5) プラネタリウム

恒星の色の再現性が上がった光学式プラネタリウム、新しくなったシアターの内装(スクリーン、座席、カーペット)と音響設備など、ハードウェア面でのリニューアル内容を生かした運営を行います。

スタッフの専門性を高めて番組映像の内製化を実現し、デジタルプラネタリウム機能を用いて視覚的にもわかりやすく最新の宇宙天文分野の話題を星空投映に組み合わせます。

プラネタリウムの原点でもある、当日の夜の星空を解説員がすべて生解説するスタイルで、来館者とのコミュニケーションを重視することで、一方的な解説ではなく参加してもらい「ライブ」感を創出し、ただ観るだけではない体感する学び(実感できる学び)の場を提供します。

大型映像では、ドームスクリーンに没入感のある映像番組を上映します。科学分野の知識を迫力満点のドーム映像で学ぶことのできる機会を提供します。

① 投映スケジュール

- ◆ 星空生解説番組と大型映像番組を分けて投映し、番組の選択肢を増やします。来館者を飽きさせず、プラネタリウムの利用率を高めることを目指します。
- ◆ 基本的に、平日は一般向けの投映を午後2回行い、午前から午後にかけて、学校を中心とする事前予約団体向けの投映を最大3回行います。また、土曜・日曜・祝日と学校長期休暇期間(夏休み、冬休み、春休み)は幼児連れの家族向けのプラネタリウムと一般向けのプラネタリウム、大型映像の投映を合わせて1日5回行います。
- ◆ 大人の利用を促進するため、夜間投映を定期的に行います。基本的に週1回、土曜日の夜の実施を想定します。
- ◆ 利用動向や団体の予約状況に応じて、スケジュールの最適化を図っていきます。

② 投映番組

◆ 生解説プラネタリウム

- ・ 天文・宇宙に精通したプロフェッショナルなスタッフを育成し、全編生解説で案内する自主制作の星空番組を投映します。専門性とショーマンシップを大切に、来館者を飽きさせない番組づくりを行います。
- ・ 全国で唯一の試みとして、南半球の星空を投映し、子どもたちが広い視野で世界を見る力を養います。
- ・ 浜松の科学技術や地域の魅力を発信する番組づくりを行います。

例) ・ 浜松の光技術が支える、最新天文学を楽しみながら学べる番組

- ・ 市内で撮影した 360° のパノラマを活用した星空投映
- ・ 浜松天文台で撮影された天体写真を活用した番組 等

◆ 大型映像

- ・ 宇宙や生物(恐竜含む)など、幅広い科学分野の高品質なライブラリー番組を上映します。
- ・ 新たに導入したスライスシステムを活用することで、複数の配給会社からの番組購入が可能となります。ターゲットに幅をもたせ、キャラクター作品に依存しない番組選定を行います。
- ・ 一定期間ごとに番組を変更することによりピーターの確保を図ります。期間によって、1日に2つの番組を上映し、来館者の選択肢を増やします。

◆ キッズプラネタリウム

- ・ 幼児や低学年児童が家族と楽しめる、通常より短く、やさしい内容の星空生解説番組を投映します。

◆ 事前予約団体を対象とした投映

- ・ 学校団体向けに、理科の授業カリキュラムに合わせた学習投映を行います。
- ・ 幼稚園・保育園団体向けに、通常より短く、やさしい内容の星空生解説番組を投映します。

③ プラネタリウムの利用促進

◆ プラネタリウムドームを活用した宇宙・科学イベント等の開催

天文や宇宙の最新の知見に触れることのできる講演会やイベント等を開催します。

◆ 大人の利用を促進する投映

大人がプラネタリウム利用する機会を増やす取り組みを実施します。

◆ 「音楽のまち」浜松をアピールする投映

演奏家や企業等と連携し、音楽を取り入れた投映やイベントを行います。

◆ 多様な方にプラネタリウムを楽しんでいただく投映

より多くの方に利用していただけるよう、プラネタリウムの鑑賞に困難のある方に配慮した投映を行います。

◆ プラネタリウムドームを幅広い用途で活用する取組

プラネタリウムのドーム空間や機能を多角的に活用する方法について検討します。

(6)学校等との連携協力

科学館の特長を活かした効果的な学習を、市教育研究会理科研究部や学校の先生方と連携し、地域の他施設や他機関の協力を得て実施します。また、学校団体で利用しやすい環境の確保に努めます。

① 学校団体の学習利用の推進

◆ 学校団体向け学習プログラムの実施

- ・ 展示室の見学とプラネタリウムの学習投映を基本とした学校団体向けのプログラムを設けて、学年や学校側の諸条件に合わせて選択できるようにします。
- ・ プラネタリウムの学習投映を、学校団体の利用の多い平日の午前中を中心とした時間帯(10時、11時半、

13時)に実施します。理科の単元に合わせて、月の動き、星の動き、太陽の動き等の投映を行います。

- ・ アクティブ展示解説や実験ショー、人工知能の機械学習体験など、科学館の展示や学習メニューを活用した学校団体向けのプログラムを用意します。

◆ 学校団体への利用のはたらきかけ

- ・ 市内の小学校を対象として、科学館を授業で活用していただくための案内(「学校団体利用の手引き」と利用申込書を市内全校に送付します。学校行事に組み入れやすいよう、前年度の年末頃に送付し、予約受付を開始します。
- ・ 科学館の公式 Web サイトに学校団体専用のページを設けて、「学校団体利用の手引き」や申込書のダウンロードができるようにします。
- ・ 科学館を利用した学習に対する理解を促進するため、校長会、市教育研究会理科研究部や、利用実績のない学校に出向き、説明を行います。

◆ 学習利用にあたっての教員との連携・協力

- ・ 科学館を利用する教員の相談や事前調査に対応し、学習効果の高い授業の実施を支援します。要望に応じ、事前学習のための教材の貸出等も検討します。
- ・ 児童生徒が展示を活用して主体的に学ぶことを支援するツールを用意します。疑問を引き出したり試行を促したりするセルフガイドやワークシートを用意します。
- ・ リバージオモデル、浜松(天竜川)の岩石学習キット、浜松の昆虫標本など、事前学習のための教材の貸出を行います。
- ・ 児童生徒の事後学習等の成果を館内で紹介します。

② 出張科学館の実施

◆ 学校や公共施設を対象とした出張科学館の実施

- ・ 市内小中学校約 150 校を対象に、来館の困難な地域を中心として、出張科学館の実施校を募集します。
- ・ 学校以外に、市内の協働センター、自治会、子ども会、PTA、病院、福祉施設等の要請に応じ、来館の困難な子どもたちのための出張科学館を実施します。
- ・ 市内のイベントやまつりでサイエンスショーやワークショップを実施し、科学に対する興味の喚起に努めます。

◆ 科学館のサイエンスショーやワークショップを基本としたプログラム

- ・ 科学館のサイエンスショーやワークショップのプログラムを出前するかたちで実施し、参加人数や会場、時間等の条件に対応します。

③ 作品展、表彰式に関する業務

小中学校の児童・生徒の理科研究作品等について、関係団体等との連携、協力により、作品展、表彰式等を開催します。

◆ 浜松市小・中学生理科研究作品展

- ・ 浜松市教育研究会理科研究部と共催し、市内理科自由研究の優秀作品を展示します。

◆ 浜松市小・中学生発明くふう展・表彰式

- ・ 浜松経済クラブ、社団法人発明協会静岡県支部と連携し、浜松市内の小・中学生の優秀作品を展示するとともに、表彰式を行い、優秀作品を顕彰します。
- ・ 「静岡県学生児童発明くふう展」及び「全日本学生児童発明くふう展」への推薦を行います。

◆ 櫻場賞授与式・理科研究発表会

- ・ 理科自由研究の応募作品の中から、櫻場賞審査員により選ばれた優秀作品を顕彰し、受賞者の研究発表

を行います。

④ 児童・生徒等に対する相談の実施

小・中学校の児童・生徒をはじめとする市民の科学や理科に関する相談に対し、助言等を行います。

◆ 理科自由研究、発明くふう作品の相談

- ・ 夏休み期間中に、児童・生徒の自由研究や発明くふう作品の制作を支援する相談会や、ワークショップ、サイエンスショー、教室等を実施します。
- ・ 研究発表を支援するプレゼンテーション教室等の開催も検討します。

◆ 科学・理科に係る教育人材のネットワークによる相談等への対応

科学・理科教育の実践者との連携・協力体制を構築し、多様化・高度化する理科教育や科学教育の方法を取り入れていきます。

- ・ 浜松市教育研究会理科教育研究部等との連携による理科教員OBの参加・協力体制の構築
- ・ 次世代育成に取り組む大学や企業、団体との連携（浜松 RAIN 房 等）
- ・ 科学教育に関わる専門家との連携（プログラミング、デジタルファブリケーション、電子工作 等）

⑤ 学校をはじめとする公的機関の研修、実習等への対応

学校や教育委員会等の教育関係機関や市などの公的機関が行う研修、実習等を積極的に受け入れます。また、地元の企業や団体の研修にも協力します。

- ・ 理科教員実技研修会を、応用物理学会、浜松市教育委員会と共催して実施します。
- ・ 市内小・中学校の依頼に応じ、教職員 10 年程度の教職員を対象とした社会教育施設研修を実施します。
- ・ 子ども講座を担当する市の生涯学習施設の職員に対する実験や工作等の実技研修会を、市の要請に応じて実施します。
- ・ 中学生の職場体験を受け入れ、科学館の社会的役割や職員の仕事が理解できるプログラムを実施します。
- ・ 大学の博物館・社会教育施設実習を受け入れ、実習生向けのプログラムを実施します。
- ・ 大学の地域連携活動を支援し、講義やゼミの支援、学生インターンの受入等を実施します。
- ・ 企業や団体が実施する人材育成研修にも対応します。

⑥ 助成事業等を活用した理科学習や科学学習の推進における学校との協力

学校との連携による理科学習や科学学習を推進するため、理科研究部や学校に対し、地域の科学教育振興等を目的とする助成事業への応募をはたらきかけます。（例：国立研究開発法人科学技術振興機構の助成事業等）

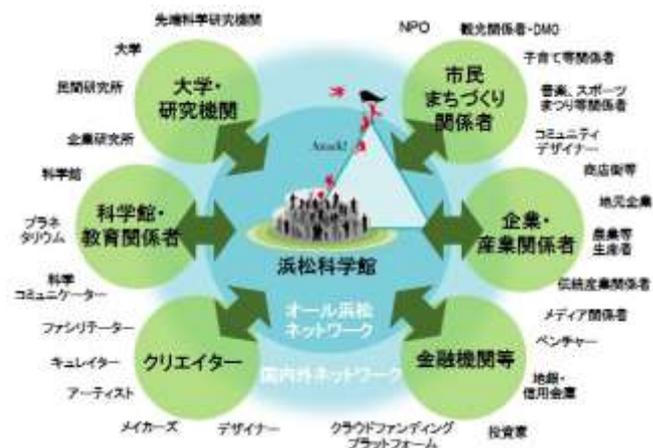
⑦ 幼稚園・保育園団体の利用への対応

幼稚園・保育園に対し、幼児向けの投映やワークショップ等を実施します。

(7)関係機関等との連携

浜松科学館で築かれてきた地域の企業や大学、団体、サイエンスボランティア等との連携・協力関係を継承し、次世代を育成する体制を構築します。連携・協力による科学館活動を推進する体制づくりについて、下記のような方針のもとで検討し、地域社会における科学館の役割を拡張し、地域づくりにも貢献することを目指します。

- 次世代人材の育成に関わる機関や施設のネットワークの「ハブ」機能を科学館が担い、「オール浜松」での人づくりを推進します。
- 浜松市内だけでなく、国内外の多様な機関や施設と連携して、人材育成のネットワークを拡大します。
- 地元の起業家や中小企業と連携し、科学館の展示や施設機能を活かして、浜松のものづくりや起業家精神、技術開発等について地域内外に発信します。



① 市内の関係者との連携・協力

◆ 科学の祭典「おや！なぜ？横丁サイエンスアベニュー」

- ・ 浜松を代表する企業・学校、団体、サイエンスボランティアに出展していただき、実験や工作を行うイベントを年1回開催します。
- ・ 全館を使用し、ものづくりラボ、サイエンスラボ、ショーステージ等の新たな施設機能を活用したプログラムを加えます。
- ・ 飲食・物販店舗の出店などにより、地域イベントとして多くの人に来場していただけるよう工夫します。

◆ 「グリーンサイエンスカフェ in 浜松」の実施

- ・ 静岡大学の研究者と市民の対話の場として、静岡大学グリーン科学技術研究所が主催し、市と科学館の共催で実施する講演会やワークショップ型の講座を、大学との相談・調整の上で実施します。

◆ トップガン教育システム協議会との連携による事業

浜松市の「子どもの才能を伸ばす課外講座開催事業」の内の一つとして、次世代を担う突出した人材を育成し、浜松で育った子供たちが世界中で活躍できるきっかけの場を提供します。

◆ IT関連の外部団体との連携による事業

浜松市の「浜松ITキッズプロジェクト」の卒業生、「ロボカップジュニア」の参加者を含めた子供たちが、浜松のIT産業へ貢献できるようなきっかけの場を提供します。

◆ 市内の文化施設等との連携による事業

浜松天文台や各施設との相談の上で、相互の資源を活かした効果的な学習の実現を目指します。

<事業例>

- ・ 浜松天文台との連携による「ゆめいっぱい小学生宇宙絵画展表彰式・展示会」や、合同天体観望会、天文台で撮影された写真等を活用したプラネタリウム番組の投映 等
- ・ 浜松市楽器博物館との連携による、演奏とともに楽しむ講座、イベント 等

◆ 企業や大学、研究機関との連携による事業

- ・ 地元の企業や大学、産業団体等の協力を得て、人材育成や科学技術の普及のための教室や講座、体験学習等を実施します。連携先の拡大に積極的に取り組んでいきます。

② 国内外の研究機関や科学館との連携

◆ 国内外の研究機関等との共催事業

国の科学・技術の研究機関の助成事業や、連携による講座、教室等を実現し、来館者の学習機会を拡充するとともに、来館者が科学・技術に関する最新の知見に触れる機会を創出します。

◆ 全国の科学館との連携・協力

代表企業が運営する科学館(多摩六都科学館、佐賀県立宇宙科学館、三沢航空科学館 等)と特別展等において連携します。その他の科学館、博物館との連携・共催事業も推進します。例として、山梨県北杜市オオムラサキセンターとの交流事業を行います。

③ 他機関や他のイベントとの連携による賑わい創出

◆ サイエンスパークでのイベント等の開催

特別展等の開催期間中に、サイエンスパークを活用したイベント等を行い、賑わいを生み出します。

◆ 市中心部のイベントとの連携

市中心部における賑わいづくりイベントに参加・協力し、賑わいの相乗効果を生み出します。

(8) ボランティア活動支援

主体的・対話的なアクティブ・ラーニング型の学びを推進する科学館活動のパートナーとして、市民ボランティアと連携し、科学を楽しむ地域文化の創造を目指します。一般ボランティア(大人)とジュニアボランティア(中学生・高校生)を募集します。

① ボランティア活動支援の方針

ボランティアが子どもたちや市民の学びをサポートすることを通じて、地域社会に貢献できる場を提供します。ボランティアの主体性を尊重することを基本としながら、希望やスキルに応じて様々な活動の機会をコーディネートします。

科学や理科だけでなく、工作、読み聞かせ、音楽、幼児教育といった様々な分野のスキルを活かせる場をつくり、より多くの方に参加していただくことを目指します。

② ボランティア活動の場の提供

- ・ 来館者とのコミュニケーションや展示解説、ワークショップの運営などの活動の場づくりに努めます。
- ・ ボランティアと来館者との交流を拡大する機会として、「おや！なぜ？横丁～サイエンスアベニュー～」への出展を支援します。

③ ボランティアの募集

- ・ 市の広報誌および科学館ウェブサイト等への募集記事の掲出や、公共施設等へのチラシ配布等によって募集の告知を行います。

(9) 調査・研究および収集・保存

主に自然科学分野において、浜松市やその周辺地域の標本や観測記録の収集・保存を設備が許容できる範囲で行います。

また、調査・研究を行い、浜松市の自然科学の発展に貢献します。得られた標本やデータは、科学館の展示で公開、公表していきます。

(10) マーケティング

利用者中心の視点に基づいたマーケティングを実践します。利用者セグメントに合わせて、コンテンツ展開及び広報を行うことで、科学館と利用者とのより良い関係を継続的に構築し、高い満足度を達成するよう努めます。

① 顧客開発

◆ 新規利用者の開拓

新たな利用者を増加させる施策として、以下のような取り組みを行います。

- ・大人も楽しめる科学館としての訴求
- ・平日利用の高付加価値化に向けた取り組み
- ・公共交通機関の利用促進
- ・地域の公的な団体や、浜松まちなかにぎわい協議会などと連携した活動

◆ リピー特利用の促進

年に4回以上のリピー特利用を促すために年間パスポートを発行します。

<年間パスポート料金>

	常設展示とプラネタリウム		
	大人	中人(高校生)	小人(中学生以下)
料金(税込)	2,700円	1,200円	

※ プラネタリウムの観覧は1日1回まで

② 広報

科学への好奇心を刺激し、科学館への来館を促進する広報活動を行います。媒体を複合的に活用し、科学館の認知度向上とブランディングを図ります。マスメディア向けの広報にも注力し、戦略的な情報発信に努めます。

浜松科学館が市民や周辺エリアの人々にとってより身近に感じられる施設となることを目指して、科学館のイベント等の情報や、科学に関わる情報等を日常的に発信していきます。

◆ 紙媒体の活用

事項	内容
科学館ニュース	科学館の事業の全体的な広報を行う。市内小学校への送付を想定。
科学館リーフレット	施設案内のためのリーフレットを制作し、来館者を中心に配布する。
ポスター、チラシ	科学館の主要事業の集客のための広報をタイムリーに行う。

◆ ウェブ媒体の活用

事項	内容
公式ウェブサイト	タイムリーにコンテンツを更新し、来館意欲のわくような、わかりやすい情報発信を行うとともに、利用者の利便の向上を図る。
公式 SNS アカウント	ソーシャルメディアを活用し、ウェブ上での効果的な情報拡散を図る。

公式アプリ	公式アプリ「コンパス」を用いて、アプリの利用者に情報を直接プッシュ告知し、集客を促進する。
-------	---

◆ マスメディア等の活用

事項	内容
浜松市広報紙	浜松市の広報紙への記事掲載のために、科学館の最新情報を配信する。
メディア連携	指定管理者の構成企業である SBS グループと連携した情報発信を行う。
プレスリリース	テレビ局、新聞社、地元メディア等に、科学館の最新情報を配信する。
パブリシティ	記者クラブ等を中心に科学館に対する取材の働きかけを行う。また、テレビ番組・CM・雑誌等の撮影依頼があった場合は内容を審査のうえ協力する。

◆ その他広告媒体の活用

事項	内容
各媒体における広告掲出	浜松駅や地域紙などのメディアに広告を掲出し、認知度向上および利用者増加につなげる。

3 経営管理計画

(1) 開館日及び開館時間

① 開館日

来館者層別のニーズをきめ細かく捉えた適切な開館日設定により、利便性と効率性の調整を図ります。

- ・ 休館日は月曜日、年末・年始(12月29日～1月2日)を基本とします。月曜日は、学校団体の校外学習が行われることがほぼなく、また修学旅行の場合は移動日にあたることが多い曜日です。一方、浜松科学館の過去の実績では、火曜日と木曜日が学校団体の利用の多い曜日となっています。これらを鑑み、学校団体の利便性に配慮して休館日を月曜日とします。
- ・ 学校の休暇期間(夏休み、冬休み、春休み)は月曜日も開館します。
- ・ 利用者ニーズに配慮し、利用実績に基づいて開館日の見直しを図っていきます。
初年度は、幼児・児童連れの利用機会を増やすことを目的とし、現条例における「祝日の翌日休館」を開館日とすることを試行します。また、年末は12月29日まで開館します。また、臨時休館日を9月と2月に設けて、来館者の安全確保のための集中メンテナンス及びスタッフの代休及び有給休暇の取得期間とします。

② 開館時間

開館時間については、来館者のニーズが反映された現条例における時間設定を踏襲します。

- ・ 通常時を9:30～17:00とし、夏季は9:30～18:00とします。
- ・ ホール及び講座室の貸室利用については、9:30～21:30とします。
- ・ 自主事業等による夜間利用時には、あらかじめ、市と協議の上、開館時間を延長することとします。

(2) 利用料金

① 利用料金

利用料金を確保し、市の財政負担を軽減する観点から、通常の観覧料は条例改正によって規定された通りに設定します。2019年10月の消費税増税後も料金は据え置きとします。

団体料金も通常観覧料に対する従前の割引比率に基づいて設定します。教育課程の教職員引率者については無料とします。

<利用料金表>

		常設展入場料			常設展入場料+プラネタリウム1回分観覧料 (大型映像1回分観覧料)		
		大人	中人 (高校生)	小人 (中学生以下)	大人	中人 (高校生)	小人 (中学生以下)
通常料金		600円	300円	無料	1100円	550円	無料
団体料金	浜松市 湖西市	420円	210円	無料	770円	380円	無料
	その他地域	540円	270円	無料	990円	490円	無料

※70歳以上の方は入場料および観覧料が無料となります。

②その他利用料金

◆ 特別展

開催規模や内容に応じて設定します。常設展示・プラネタリウムの観覧料とのセット割引を導入します。

◆ 施設利用料

料金は条例・規則通りとします。付属設備使用料についても同様とします。

◆ その他の料金

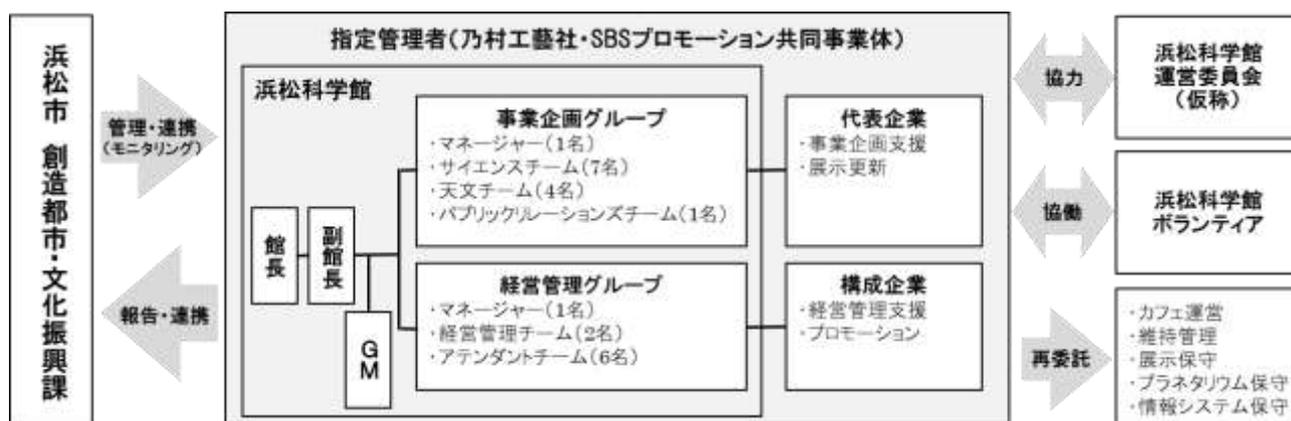
教室などの催しにおいて、材料費や資料代等の実費相当額を受益者負担として徴収します。

(3) 管理運営体制

① 運営組織

管理運営業務を実施するために必要な組織体制を構築し、必要な人員を確保します。

<管理運営体制図>



◆ 内製・直営による一体的運営

内製・直営(維持管理・保守業務・カフェ運営を除く)を基本とした一体的組織運営により、一貫性のある館運営を行います。

◆ 浜松市との緊密な連携

指定管理者制度の枠組みの中で浜松科学館の理念を推進していくために、浜松市との緊密な連絡・報告・協議体制を構築した上で、主体的な事業運営を行います。月次で浜松市担当課との定例会議を開催し、本社担当者も出席して情報共有や課題解決にあたります。

◆ 共同事業体構成企業のバックアップ

共同事業体構成員は、連帯して指定管理業務に責任を負うとともに、必要な経営資源(人材・業務インフラ・資金・情報)を供給します。また、各社の得意分野を活かし、運営をバックアップします。

◆ 浜松科学館運営委員会の組成

科学館事業への助言および協力を得ることを目的とし、学識経験者等で構成する浜松科学館運営委員会を市と協議の上で組成し、共同事業体が事務局を担います。

◆ 共同事業体運営委員会の設置

事業計画等の重要な起案事項を決定するとともに、セルフモニタリング等のチェック機能を担います。

◆ シニアアドバイザー(科学館館長等経験者)の配置

科学館館長等のマネジメント経験者をシニアアドバイザー(非常勤)として配置し、科学教育に関する見識や全国の科学館及び科学教育関係者とのネットワークを活かした管理運営を行います。

◆ 全国の科学館との人的交流と事業連携

共同事業体の代表企業が運営する科学館との人的交流や事業面の連携を図る環境をつくり、運営ノウハウの共有や、スタッフ個々人の専門能力の向上を図ります。

② 職務分掌

館長及び副館長のもとで、経営管理グループ、事業グループの各組織が、それぞれの業務を推進します。

<職務分掌>

役 職		職務分掌	
館長 1名		館の顔として館外交を代表、館の統括	
副館長 兼 統括責任者 1名		館全体の管理運営を総括、苦情対応、市との連絡調整	
GM 1名		県内の関係機関との連携	
経営管理 グループ (9名)	マネージャー 1名	経営管理部門の責任者、防災管理者、業務委託管理、施設維持管理	
	経営管理 チーム (2名)	リーダー 1名	経理、団体予約管理、事前申込管理、問合せ対応 ボランティア活動支援窓口
		常勤 1名	
	アテンダント チーム (6名)	リーダー 1名	顧客接点の責任者
常勤 5名		総合案内、チケット販売 ミュージアムショップの運営	
事業企画 グループ (13名)	マネージャー 1名	事業企画部門の責任者	
	天文 チーム (4名)	リーダー 1名	宇宙・天文に係わる教育普及・展示企画・研究活動
		常勤 3名	
	サイエンス チーム (7名)	リーダー 2名	生物・地学・理工分野に係わる教育普及・展示企画・研究活動 常設展示のメンテナンス
常勤 5名			
パブリック リレーションズ チーム(1名)	常勤 1名 (別途、事業企画グループマネージャーの兼任を想定)	ウェブサイト運用、SNS 運用、紙媒体制作管理、取材対応	

③ 研修等業務の実施

円滑に業務を推進し、安全・安心な体制でお客様をお迎えするための教育研修を実施し、サービス品質の維持・向上を図っていきます。プログラムや内容は、運営の成果や課題、社会の要請に応じて見直しを行います。

◆ 基本研修

職員全員を対象として、浜松科学館の職員としての自覚を持ち、科学館の運営方針や施設、展示について理解し、組織の一員として働くための知識やルール等を身に付けます。

研修・教育	目的・内容・方法等
組織の規則、ルールに関する教育	・科学館の指定管理者としての使命、目標、計画の理解 ・館内規程、マニュアル、業務処理等の理解
施設・展示研修	・展示や施設の特徴や利用方法の理解
接客・接客基礎教育	◇サービスフロントとしての意識を持ち、サービススキルを身に付けるための研修 ・身嗜み、マナー、接客用語、拾得物・遺失物対応、迷子・傷病人対応、苦情対応等
防災・防犯に関する講習及び緊急時の対応教育	◇緊急時に来館者を危険から守り、快適な施設環境を維持するための研修 ・消防訓練、避難訓練、事故・救命対応訓練 ・不法行為への対応、火災・地震・風水害への対応 等
個人情報保護に関する研修	◇来館者の利益を侵害せず危険から守るための研修 (代表企業法務担当者が実施)
障害者対応研修	◇「障害者差別解消法」の合理的配慮を提供し、温かく迎えるための研修 (福祉施設や社会福祉協議会等と連携して実施) ・障害者の理解及び、支援や介助の方法 等
機器・設備の取扱研修	◇いつ来ても安全で、故障のない施設運営を遂行するための研修 ・施設設備や展示機器の取扱いや保守点検に関わる研修
その他の研修	◇地域の一員として活動するための研修 ・浜松のものづくり、科学技術、観光資源等について理解する研修 ・地域の施設についての案内を適切に行い、連携を推進するための研修等

◆ スキルアップ研修(随時)

科学館活動の充実化を図るため、スタッフの知識や技能向上のための学習を支援します。また、学習成果を館内で共有します。

研修・教育	目的・内容・方法等
館長、副館長(事業グループマネージャー)の研修	◇科学館の責任者としての実務についての研修 ・代表企業が運営する博物館、科学館等施設との情報交換等
事業グループ職員の専門知識やスキル向上のための研修	◇学協会への派遣や他施設交流研修 ・全国科学博物館協議会、日本プラネタリウム協議会等の大会や研修会への職員派遣 ・代表企業が運営する科学館をはじめとする他施設での研修や職員の交流 ◇科学コミュニケーターとしての資質を高める研修 ・シニアアドバイザー(元科学館館長)の講義 ・講座受講 等 ◇AIやデジタルファブ리케이션に関わる研修 ・AIシステム[IBM Watson]の機械学習の実務研修 ・セミナーや実技講習等への派遣 等
資格、認定取得、スキル習得の支援	◇科学館活動の質を高める資格の取得や、科学館活動に役立つ学習活動の支援 ・学芸員、イベント業務管理士、観光士、観光コーディネーター等資格取得 ・まるごと浜松検定、外国語会話、手話 等

(4) 受付案内

① アテンダント業務の方針

適切なお案内を行い、顧客満足度を高めるよう努めます。業務マニュアルを作成し、スタッフに対してマニュアルに基づく研修を行うことで、サービス水準の維持、向上を図ります。

② アテンダント業務の実施内容

◆ 1階インフォメーションにおける受付・案内業務

業務	内容
来館者の誘導、案内、受付業務	・来館者の誘導、案内(車椅子・ベビーカー等貸出、拾得物・遺失物への対応) ・団体の誘導、案内 ・施設及び施設の利用方法、当日のプログラム、スケジュール等の案内・問合せ対応
発券業務	・常設展、プラタリウム等の利用料金の徴収(減免手続や領収書発行等含む) ・上記に伴うチケットの発行、プラネタリウムの残席数の管理
科学学習情報システム 端末貸出業務	・科学学習情報システムの貸出端末利用者への対応 ・端末の貸出料金の徴収
情報提供業務	・周辺及び市内の文化施設や関係機関に関する情報提供等

◆ プラネタリウムドームにおける誘導・案内業務

科学館3階のプラネタリウムドームにおいて、観覧者の誘導、案内等を行います。

業務	内容
チケット確認	・プラネタリウム観覧券の確認および観覧者数のカウント
誘導案内	・座席への誘導および出口への誘導

(5) 貸室

① 貸室業務の方針

浜松市スポーツ・文化予約システム(まつぼっくり)による施設の利用申請を受付け、利用許可を行い、利用料金を徴収します。利用日の6カ月前から申請の受付を行います。

施設の有効活用を図るため、施設の機能や利用方法等についての周知を図り、より多くの市民の学習、交流活動等での利用を促進します。

② 貸室業務の実施計画

◆ 利用可能時間

午前 9:30 から 21:30 までを貸出時間とします。(準備、片付け、原状復帰の時間も含む)

◆ 対象諸室と利用料金

対象諸室	利用区分		9:30～10:00 及び 21:00～21:30	10:00～21:00 1時間につき
ホール	教育関係団体	入場料徴収なし	460	920
		入場料徴収あり	920	1,850
	その他	入場料徴収なし	920	1,850
		入場料徴収あり	1,850	3,700

セミナールーム A	教育関係団体	入場料徴収なし	150	310
		入場料徴収あり	300	630
	その他	入場料徴収なし	310	630
		入場料徴収あり	630	1,270
セミナールーム A	教育関係団体	入場料徴収なし	150	310
		入場料徴収あり	300	630
	その他	入場料徴収なし	310	630
		入場料徴収あり	630	1,270

◆ 利用者への対応について

椅子や机等の備品の貸出の他、音響、照明、冷暖房装置等の備品の有料での貸出を行います。

(6) 施設維持管理

① 施設維持管理業務の方針

来館者に満足してもらうための快適かつ機能的な環境を継続的に提供します。予防保全を基本とし、中長期的な視点からライフサイクルコストの低減に努めます。公共施設、社会教育施設としての施設特性を踏まえ、その目的の達成を施設維持管理面で支えるため、次の基本的な考え方に基づいて業務を行います。

- 来館者にとっての安心・安全・快適な環境を実現します。
- 当施設の建物、設備、展示装置、その他装置、物品等を適切に管理し、機能及び性能を保ちます。
- 「浜松市役所温暖化対策マネジメントマニュアル」に従い、省エネルギー、省資源に努め、環境負荷の低減に配慮した管理を行います。

② 施設維持管理業務

安全、安心で快適な施設環境を保つため、設備管理業務、清掃業務、警備業務を行います。

< 設備維持管理業務内容 > * 施設設備仕様に合わせて検討

	区分	業務内容
日常管理	設備運転管理業務	・設備運転管理
	日常清掃業務	・日常清掃
	警備業務	・機械警備業務
定期保守	設備保守点検業務	<ul style="list-style-type: none"> ・昇降機設備保守点検業務（月1回以上） ・自動ドア保守点検業務（年4回以上） ・空調自動制御機器保守点検業務（年2回以上） ・消防設備保守点検業務（法定点検及び定期点検） ・自家用電気工作物保守点検業務（法定点検及び定期点検） ・音響設備保守点検業務（年1回以上） ・監視カメラシステム及び放送設備の保守点検業務（年1回以上） ・舞台照明保守点検業務（年1回以上） ・空気環境測定業務 ・給排水衛生設備保守点検 ・建築設備定期検査報告及び特定建築物定期調査報告（年1回） ・防火設備定期点検報告（年1回） ・防火対象物定期点検報告（年1回）

		・防災管理定期点検報告(年1回)
	定期清掃業務	・定期清掃(年6回以上) ・ガラス清掃(年2回以上) ・屋外緑地の植栽管理(年2回以上) ・害虫駆除(年2回以上) ・紙屑危険物搬出業務(週2回以上)

③ プラネタリウム機器の保守管理業務

プラネタリウム機器を常に正常な状態に保ち、最適な環境の下で安定的に投映を行うことができるようにするために、日常点検を行うとともに、故障やトラブルを未然に防ぐための定期保守点検を行います。また、不具合が生じた場合は、速やかに復旧させるために、補修や部品交換等の適切な処置を迅速に行います。

<定期保守点検の実施内容> * 機器仕様や使用年数に応じて随時検討

内容		頻度
1	作動点検(光学式プラネタリウム、デジタルプラネタリウム、プロジェクター 等)	1回/年
2	総合点検(光学式プラネタリウム、デジタルプラネタリウム、プロジェクター 等)	1回/年
3	プロジェクターランプ交換	1回/年

④ 展示保守管理業務

映像機器や展示装置等の展示を常に正常な状態に保ち、故障や破損を未然に防ぐことで、来館者が安全に利用できるように、日常的な点検を行うとともに、定期的な保守点検を行います。また、映像機器や情報機器には耐用年数がありますので、機器の特性に応じて機器更新を行います。不具合が生じた場合は、速やかに復旧させるために、補修や部品交換等の適切な処置を迅速に行います。

<定期保守点検の実施内容> * 展示仕様や使用年数に応じて随時検討

内容		頻度
1	映像機器点検作業(映像・音響装置、プロジェクター、PC タブレット PC 等調整・動作点検)	適時
2	展示装置点検作業(調整・動作点検)	適時
3	造形物点検作業(目視点検)	適時
4	屋外遊具点検作業(調整・動作点検)	1回/年

(7) 安全管理

① 安全対策の基本的な考え方

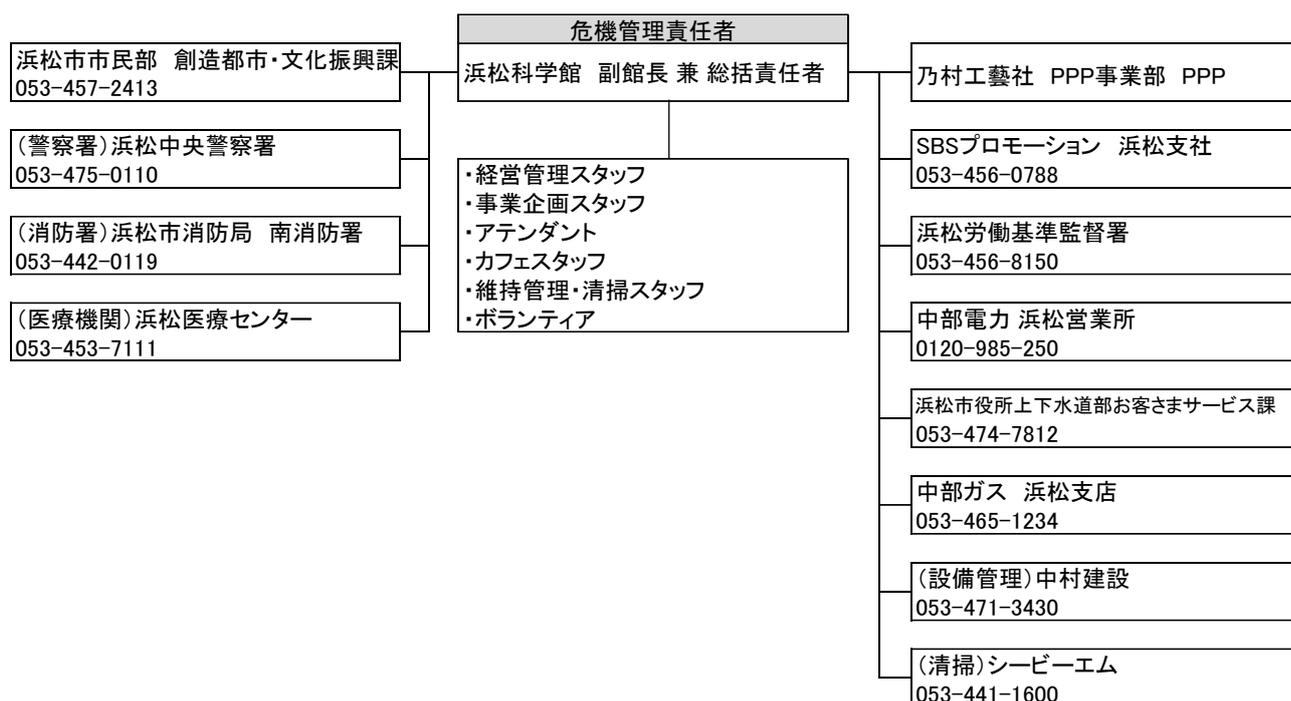
来館者の安全を確保するために、防災計画や防災マニュアルを策定し、施設内での事故・災害・盗難・不正・破壊等を未然に防止します。

また、日常的な施設の施錠開閉及び入退室者の管理を行うとともに、来館者に対して細やかな心配りにより安全を確保し、危険な事態や火災・盗難等の早期発見と拡大防止に努め、災害や事故に強い施設づくりに取り組みます。

② 緊急時の対応体制

災害等の発生時には危機管理責任者を中心に連絡体制を整え、浜松市の関連部署と連携を密にした指揮命令系統をつくり、対策にあたります。

<緊急時連絡体制>



③ 防災対策

災害に備えて防災対策を図るとともに、本施設が被災した場合には、直ちに補修等の措置を講じ、施設の機能維持に努めます。

- ・防火管理者の選定と「消防計画」の策定
- ・自衛消防隊の編成（・隊長 ・通報連絡係 ・消火係 ・避難誘導係 ・搬出係 ・応急救護係）
- ・災害時の参集基準の設定（地震の震度や風水害の警報レベルに応じた避難、休館等の基準の設定）
- ・「危機管理マニュアル」の作成
- ・「緊急対応ポケットメモ」の作成とスタッフ全員の携行
（緊急時の行動、自衛消防隊、緊急連絡網、関係連絡先一覧、緊急退避、閉館と参集基準、近隣防災マップ、緊急時アナウンス例（多言語）、館内フロア頃の避難誘導動線と消火器、消火設備配置図 等）
- ・緊急事態に備えた教育・訓練の実施
 - －危機管理マニュアルに基づく緊急時対応訓練
 - －消防訓練（年2回）
 - －設備・危機の取扱い教育（AED 取扱い研修を含む）
- ・確認された防災事項や事故情報、他館で発生した事故事例等の防災情報の共有化と、職員・スタッフ各員の予防意識の喚起

(8) モニタリング及び事業改善

① セルフモニタリングの実施方針

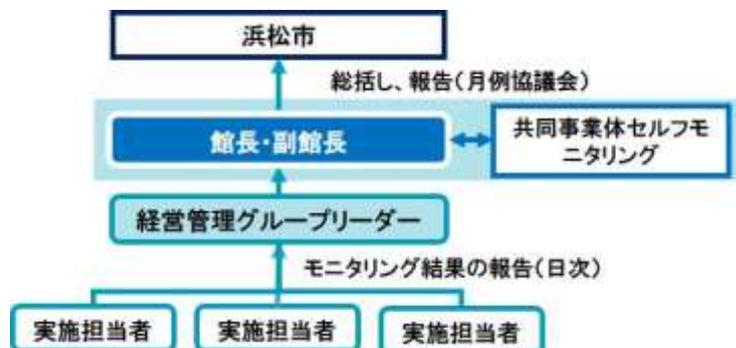
当計画（基本計画）の目標及び、年度ごとの「実施計画」の目標を設定して事業を計画的に実行し、モニタリングを行います。年度ごとの成果と長期的な目標に対する達成度や進捗を測り、事業を成長、発展させていきます。「基本計画」の目標は、事業の進展度合いや、内外の環境の変化に応じて調整し、弾力的に運用します。

② セルフモニタリングの実施体制

基本計画及び実施計画に定めた目標や計画に対するモニタリング項目と評価指標を設定し、各業務の担当者がセルフモニタリングを実施します。

業務担当者がまとめたモニタリング結果を、経営管理グループリーダーが集約・分析します。

これを館長と運營業務総括責任者が総括し、結果を館内で共有し、改善に取り組むとともに、市に報告します。



③ セルフモニタリングの実施方法

定期的なセルフモニタリングとして、年度を一つのサイクルとし、月度ごと及び年度ごとに市に成果を報告し、年度目標及び長期目標に対する成果を評価し、事業を改善していきます。

また、日常的なPDCAサイクルを回し、セルフモニタリングの結果を運営にフィードバックします。

<事業評価の実施方法>

	P<計画>	D<実施>	C<評価>	A<改善>
定期	<ul style="list-style-type: none"> ・協定書締結 ・事業計画書策定 ・水準・仕様設定 ・評価指標基準の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理・運営 ・各種事業の実施 ・モニタリングの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等の分析と評価・総括 ・月例協議会の開催 ・報告書作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・市への報告 ・改善計画の協議と実施
日常	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの加筆、修正 ・ケースにより計画・仕様等変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの提供 ・利用者の声の聞き取り ・苦情への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼や終礼での情報共有 ・発生原因の解明 ・迅速な判断 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告・協議 ・改善案や対策の検討と指示、確認 ・不具合の是正

④ 業務報告の内容及び時期について

業務報告	提出時期	内容
年次報告書	翌年5月15日まで	収支報告、利用者状況、事業実施状況、事故・苦情対応状況、施設・設備の損傷・消耗・不具合状況、自主事業実施状況、設備管理業務実施状況 等
その他	必要に応じて随時	報告目的による

⑤ 利用者の意見・要望・苦情への対応

利用者からいただいた貴重なご意見を真摯に受け止め、誠意を持って迅速かつ公平に対応します。また、ボランティアの運営に関するアイデアや提案、さらに地域の声も積極的に収集し、管理運営に反映させます。ご意見及びそれに対する対応・改善内容は、ホームページを通じて利用者への周知を行います。

⑥ 成果指標の考え方と設定案

指定管理者として市と協議の上で策定する「基本計画」(10年計画)において設定した目標、方針に対し、各年度の「事業計画」では、具体的な計画と成果指標、達成水準(数値等)を設定します。指標や目標数値は、毎年度の事業評価における達成状況や進捗状況を踏まえ、協議の上で見直していきます。

< 成果指標の設定(案) >

「基本計画」(10年計画)にて策定		「実施計画」(年度計画)にて設定
[管理運営目標]	[管理運営方針]	[成果指標(KPI)の設定案]
<p>目標1 人財創造</p> <p>多様な学びの場の創出</p>	<p>次世代人財が家族や仲間、地域内外の人々と学び合う科学館を目指し、幼児から高齢者までが科学の楽しさを体験できる多様な事業を実施します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 展示、プラネタリウム、教室等の利用者数(新規/リピーター) <input type="checkbox"/> 年代別の利用者数(幅広い年齢層の利用) <input type="checkbox"/> プラネタリウム、教室等の実施や内容更新の状況(回数、内容等) <input type="checkbox"/> 学校との連携事業の実施状況(回数、内容等) <input type="checkbox"/> 展示、プラネタリウム、教室等の満足度、科学の楽しさの実感度
<p>目標2 都市文化創造</p> <p>科学する心と挑戦心の継承</p>	<p>先人から受け継がれてきた「科学する心」と「挑戦心」を育む活動を大学や企業、市民とともに実践し、地域文化として発信していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 地域連携事業、共同事業の実施状況(件数・内容等) <input type="checkbox"/> 地域外の研究機関や科学館との連携事業の状況(件数・内容等) <input type="checkbox"/> ボランティアの活動状況(参加人数、活動内容・件数等) <input type="checkbox"/> 地域に活動の場を広げた事業の実施状況(件数、内容) <input type="checkbox"/> パートナーとなる市民や企業、大学の連携活動評価(意見内容等)
<p>目標3 産業創造</p> <p>起業家精神の育成</p>	<p>科学館の機能を活かし、地域の産官学金と連携して、先端的な技術を紹介するとともに、次世代の人々の起業家精神を育みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「新技術コーナー」「やらまいかテクノロジーコーナー」(提案事業)の更新状況(件数、内容等)、関連事業の実施状況(件数、内容等) <input type="checkbox"/> 科学技術や産業への夢を育む事業の実施状況(件数、内容等) <input type="checkbox"/> 地元企業や大学等との連携による次世代の人々の起業家精神を育む事業の実施状況(件数、内容等)
<p>目標4 観光創造</p> <p>浜松観光の魅力発信</p>	<p>浜松の観光交流拠点として、ものづくりや科学技術、自然の魅力を発信し、ビジネスや観光目的での来浜者と市民の交流による賑わいを生み出します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 浜松の魅力を発信する事業の実施状況(件数・内容等) <input type="checkbox"/> 観光集客に資する事業の実施状況(内容、件数、参加人数等) <input type="checkbox"/> 中心市街地活性化に資する事業の実施状況(件数・内容等) <input type="checkbox"/> 観光コンテンツやプログラムの開発状況(件数・内容等) <input type="checkbox"/> 観光関係者との連携によるPR等活動の実施状況(件数・内容等)
<p>目標5 施設価値創造</p> <p>持続可能な仕組みづくり</p>	<p>自主財源確保への取組みと質の高い人財の育成により、ハード、ソフト両面の改善を進め、地域に貢献できる施設として持続可能な発展を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 利用者数、会員数、科学学習情報システム利用状況 <input type="checkbox"/> 収支状況、自主事業、外部資金の導入による財源確保の状況 <input type="checkbox"/> 利用者の認知度・利用度・満足度 <input type="checkbox"/> 利用者の声を反映した事業やサービスの改善状況(件数・内容)等 <input type="checkbox"/> 人財の確保、育成状況 <input type="checkbox"/> 展示更新の計画的な実施への取り組み状況 等

4 自主事業計画

(1) ミュージアムショップ

① 事業方針

「自ら考え、対話し、行動する【科学×挑戦】の活動基地」という管理運営方針に沿った当科学館のオリジナルショップとして、事業活動と一体的に企画・運営し、来館者の科学する心と挑戦への意欲を刺激するとともに、来館者が帰宅後にさらに学びを深めることを支援します。

② 運営計画

直営で運営することで、展示やプラネタリウム、教室に関連するグッズのタイムリーな販売や、「新技術コーナー」や「やらまいかテクノロジーコーナー」の出展企業の技術を体験できる製品の販売など、事業と一体となった店舗とします。来館者の利便性に配慮し、1 階の展示室出口と科学館の正面出入口を結ぶ動線上で、かつインフォメーションと一体となった配置とすることで、来館者の関心を喚起し、立ち寄りを促進します。

③ 販売物の計画

事業と連動し、来館者の能動的な学びを支援するグッズを販売し、オリジナル商品も開発します。

◆ 科学館のテーマと連動したグッズ及び地元企業関連製品の販売

- ・ 常設展示の5つのテーマ(光、力、音、自然、宇宙)やプラネタリウムに関連した教材、実験・工作材料、書籍、文具などのグッズ
- ・ 企業展示コーナーに出展する地元企業の技術に触れられる製品 (楽器等)
- ・ 「ものづくりラボ」で使用する電子工作キットや工具、「サイエンスラボ」で使用する実験器具や材料 等

◆ オリジナル商品の開発と販売 (下記のような商品を5種類以上)

- ・ 地元企業の技術や製品を用いたオリジナル商品
- ・ 教室やワークショップの教材 等

(2) カフェ

① 事業方針

来館者の利便性に配慮し、科学館体験を高めることのできる飲食サービスを提供するとともに、来館者以外の人々が、カフェを目的として外から訪れることができるような、利用しやすい店づくりを行います。

② 運営計画

◆ ライブラリーカフェとしての運営

サイエンスライブラリー&カフェとして、図書や情報端末の閲覧、読み聞かせなどに利用できるようにします。

◆ 外からも利用できるオープンで心地よい空間づくり

科学館 1 階に、屋外テラス席のある心地よい空間を設けます。外からも利用できるようにし、サイエンスパーク利用者や近隣住民、来街者の気軽な利用を促進します。市中心部の憩いのスポットとして魅力向上と賑わい創出に寄与することを目指します。

◆ 科学館のカフェとしての場づくり

空間やサービス、メニュー等を通じ、科学への関心を高める場を提供します。

◆ 地元事業者への委託による地元ニーズに配慮した運営

運営は、基本的に市内で同種の飲食店の経営実績やノウハウを有する事業者に委託するものとし、浜松市在

住・在勤者及び市内外からの利用者のニーズをとらえた店舗づくりやメニュー提供を行います。

(3) 任意の自主事業

① 事業方針

以下のような方針のもとで自主事業を実施します。

- ・ 地域の方々との連携、協力のもとで実施します。
- ・ 利用者のサービス向上や集客、賑わいづくりにつながる事業を実施します。
- ・ 公の施設として、公序良俗に反するような事業や公平性を欠くような行為は行いません。

② 事業内容(案)

◆ 集客イベント

プラネタリウムやサイエンスパークなどのスペースを活用し、当館及び周辺地域の賑わいづくりにつながるイベントを実施します。事業実施にあたっては、地域の多様な関係者と連携します。

例)

- ・プラネタリウムコンサート
- ・屋外イベント

◆ 特別教室・講座

科学に高い意欲や関心を持つ子どもたちを対象として、科学館で特別な体験のできる教室や講座を開催します。